

「天国からの手紙」 ヨハネによる福音書 3 章 1 6 節

I 導入部

おはようございます。11月を迎えました。この月も神様の恵みをいただいて歩ませていただきたいと思えます。今日は召天者記念礼拝としての礼拝をささげています。先に天に召された方々のご家族の方々も礼拝に出席して下さることを本当にうれしく思います。私以上に、イエス・キリスト様は喜んでおられますし、イエス様以上に先に天に召された兄弟姉妹は、ご自分のご家族や親戚の方々、仲の良い方々が、この礼拝に出席しておられて、どんなに喜んでおられるのでしょうか。きっと大喜びです。

先日、座間で、9人の尊い命が奪われたという事件がありました。残酷な事件です。スピリチュアルカウンセラーの江原啓之（ひろゆき）さんが、この事件を受けて、次のように語っておられます。「この人は、何かの理由で自分の人生を殺されているはず。今の時代は、肉体だけでなく、人が心を殺し合っている時代ですから。」と。

肉体の死、それは勿論恐ろしい事でしょう。しかし、心が死ぬということ、心が殺されている時代だと語っておられます。銃や包丁での事件はあります。人を殺すのですから目立ちます。しかし、人の心を殺すということは、殺人のように目立たないかも知れませんが、恐ろしいことです。言葉による暴力ということがよく言われます。言葉によって、威圧的に攻めたり、マイナスのイメージを与えたり、そのことで心がやむ、心が死ぬということは現実にあるのです。聖書には、「舌もちっぽけなものです、使い方を誤ると、途方もなく大きな害を生じます。舌は炎です。それは悪のかたまりで、体全体を毒します。舌には地獄そのものの火が燃えさかり、私たちの人生を、滅びと災いの炎で包み込むのです。」(リビંગバイブル ヤコブ 2:5-6) とあります。

私たちは、人間にしか与えられていない言葉によって、人を傷つけるというのではなくて、人を慰め、励ますものになりたいと思うのです。そして、聖書の言葉によって慰めと励ましをいただきたいと思うのです。

今日は、聖書の中で最も有名で、最も大切だと言われる箇所、聖書の富士山、聖書のエベレストと言われる、ヨハネによる福音書 3 章 1 6 節から、「天国からの手紙」と題してお話し致します。

II 本論部

一、神様はあなたを愛しておられる

聖書という書物は、とても分厚い書物です。旧約聖書の最初の創世記から新約聖書の最後のヨハネの黙示録まで読むのには、相当の覚悟が必要です。1日3、3章読むと、1年

で読み終えることができると言われていています。ですから、なかなか聖書を最初から最後まで読むのには、骨の折れる仕事なのかも知れません。クリスチャンの方々でも、大変なのかも知れません。しかし、良いニュースがあります。それは、今日の聖書の箇所であるヨハネによる福音書3章16節の、この1節には、聖書が何を言いたいかかわかるとも言えます。神様の言いたいこと、そのおところが記されているのです。

ここには、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」とあります。新改訳聖書という聖書には、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。」とあります。父なる神様は、一人子であるイエス・キリストを与えた、というのです。その与えた理由を「世を愛された」からだと記しています。神様は世を愛されたので、一人子のイエス・キリスト様を与えたというのです。

愛とは、自分の最も大切なものを与えるということでしょう。父なる神様は、ご自分の最も大切な独り子であるイエス・キリスト様をこの世、つまり、この世に住む人々に、私たちに与えて下さったのです。与えたというのは、独り子の何を与えたのでしょうか。独り子の命を私たちに下さったということなのです。

なぜ、独り子の命を私たちに与えることが、神様が私たちを愛していることの原因なのでしょう。それは、神様によって、創造された人間は、魂の親である神様に対して、「神様は、自分には必要ない。」と自分の人生から神様を追い出して生きていた。それを、聖書は罪と言います。犯罪を犯すこと、ルールを破ることを罪というのではなく、聖書は魂の親である神様を無視して生きることを罪だと言います。そして、罪を持ち、滅びに向かっている人類を神様は愛されたのです。滅びに向かっている人類を愛して、救うために、罪ある私たちに罰するのではなくて、神の子であるお方、罪のないお方、正しいお方を、私たちの身代わり十字架につけて、裁かれたのです。十字架の上で、尊い血を流し、命を捨てられたことによって、私たちの持つ、過去、現在、未来の全ての罪が赦されて、魂に救いが与えられたのです。このことを「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」と説明しているのです。リビングバイブルという聖書には、「実に神は、ひとり息子をさえ惜しまず与えるほどに、世を愛してくださいました。」とあります。神様は私たち一人ひとりをご自分の独り子よりも私たちを深く愛して下さったということなのです。

二、あなたは永遠の命を持つ

3章16節には、続けて「独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」とあります。神様が私たちになして下さったこと、私たちの罪を赦すために、神の独り子であるイエス・キリスト様が私たちの罪の身代わりに十字架にかかって死んで下さったのです。この神様の愛であるイエス・キリスト様の十字架を自分の罪の身代わりに死んで下さったということを信じる者は、滅びない。言い換えれば、救われると聖書は宣言するのです。独り子を信じる者、つまり、私の罪の身代わりにイエス・キリスト様が十字架で死んで下さったことを信じる者は、独りも滅びないのです。信じる人は全て救われるのです。言い方を変えると、神様の愛の現れであるイエス・キリスト様が私たちの罪の身代わりに十字架にかかって死んで下さったことを感謝するなら、ありがたいと思うならば

滅びない。救われるというのです。私の罪に対するイエス・キリスト様の十字架での身代わりの死をありがたいと思う。感謝するという事は、信じるということなのです。そして、滅びることなく、永遠の命を得るというのです。

私たちの罪のゆえに、私たちが滅びる身代わりに、イエス・キリスト様が十字架の上で裁かれた。尊い血を流し、命をささげて下さった。十字架で死なれたイエス様は、墓に葬られましたが、三日目によみがえられた、と聖書は記しています。イエス・キリスト様が死を打ち破り、よみがえられたことにより、イエス様の十字架と復活を信じる者、感謝する者にも、永遠の命、死んで終わりの命ではなく、死んでも生きる命を与えて下さったのです。そして、このことは全ての人に与えられることなのです。

三、あなたへの神様からの愛の手紙

私たちは、今日、召天者記念礼拝として、礼拝をささげています。先に天に召された方々は、かつては神様に愛され、神様に創造されながらも、神様を否定していましたが神様の事を知って、自分の人生から神様を追い出していたという罪の生き方を認め、自分の罪の身代わりにイエス・キリスト様が十字架にかかって死んで下さったことを信じました。そして、罪の赦しと魂の救いを信じ、感謝し、イエス様が死んで葬られ、よみがえられたことを信じて、永遠の命をいただいて天に帰り、神様のふところでおられます。私たちはこの方々を覚え、その信仰の姿勢に学び、私たちも神様が与えて下さる魂の救いと罪からの赦し、永遠の命をいただく者でありたいと思うのです。

私たちは、生まれた瞬間から死に向かっていると云った方がおられました。この世に生を受けた者は、必ず死を経験しなければならないのです。私たち人間は死ぬというのは事実です。死んだらどうなるのか。無の世界。暗闇の世界。地獄や天国。いろいろな表現がありますが、聖書は、愛なる神様は私たちの罪を赦し、魂を救い、永遠の命を与えて下さるのです。先に天に召されたご家族や兄弟、親戚、友人は確実に天国へ、神のみもとにおられるのです。

今日の説教題は、「**天国からの手紙**」という題です。天国には郵便局はありませんし、宅急便もないでしょう。天国から手紙が来るはずがないとお思いでしょう。勿論、そのような手紙はないかも知れません。けれども、天国に先立たれたあなた両親、兄弟姉妹、子ども、愛する人々は天国に行きました。神様のふところでおられます。もし、天国にいる人々から手紙が来るとしたら、どのような手紙なのかと考えて見たのです。

愛する夫へ、愛する妻へ、愛するお母さんへ、愛するお父さんへ、愛する息子へ、愛する娘へ、愛する家族へ、愛する親族へ、愛する友人へ、愛する後輩へ、愛する先輩へ、愛する生徒へ、愛する先生へといろいろなあて名はあるでしょうけれども、天国へ行かれた方々、魂の救いと罪の赦し、永遠の命の約束を信じて召された方々は、このように言われるでしょう。

「私は、確かに死にました（病気で、事故で、長寿を全うして、）。死は悲しいものです。けれども、私は、イエス・キリスト様の十字架と復活を信じて、罪が赦された。魂が救われた。永遠の命が与えられたことを信じて、今神の国、天国にいます。苦しい痛みや悲しみ、

絶望から解放されて、イエス様が私を包み、神様の愛の中で生かされている。だから、何も問題はないよ。心配はいらない。私のために泣く必要はない。私の唯一の願いは、愛するあなたが、私と同じように、イエス様が命を捨てるほどにあなたを愛されたことを知り、イエス様の身代わりの死を感謝して、私と同じように罪の赦しと魂の救い、永遠の命の約束を信じること、そして、私のいる天国に、愛するあなたも来ることだ。私は死んだけれども。不幸ではない。イエス様と共にある平安と安心、やすらぎを経験している。私はいつも愛するあなたのために祈っている。そして、あなたが天国に来るのを楽しみに待っているよ。聖書の言葉を信じて、あなたと天国で会えることを信じている。体に気を付けて、無理をしないで、イエス様がいつもあなたと共にいて下さり、あなたを守っておられるから、大丈夫だよ。あなたの幸せを祈っています。天国で会いましょう。あなたの父より、あなたの母より、あなたの夫より、あなたの妻より、あなたの息子より、あなたの娘より・・・」天国はあるのです。そして、イエス様の十字架と復活は、もうすべての人に成就されているのですから、感謝して、受け入れて、神様の愛をいただくではありませんか。

Ⅲ結論部

皆さんは、死の備えができていますでしょうか。大丈夫でしょうか。

エルサルバドルに宣教に行かれた宣教師のレポートがあります。その夫婦には6歳の男の子、マシュー・ホフマン君がいました。彼が朝から暑い、暑いと言い出した。そして、しんどい、しんどい、目が見えなくなってきた。何も見えないというので、ただ事ではないと。車に乗せて80キロ先にしかない病院へ急いだ。お母さんの膝にのせていた。すると、マシュー君が、突然むくっと起きて、手を差し伸べる。お母さんが、目が見えないから自分の事を探しているのだと、彼の手をにぎると、手を振りほどく。また、しばらくすると、手を差し伸べるので、手をつかむと振りほどく。「マシュー、何なの。何が見えるの。」とお母さんが言うと、「イエス様だよ。イエス様が手を差し伸べていて下さる」そう言って横たえて、4日後に亡くなったのです。細菌性髄膜炎という病気だったそうです。最後に、そのレポートにこう書いてあったそうです。

「うちの息子はまだ6歳であったから、学校教育も十分に受けていなかった。だから、彼には知らないことも多くあった。彼には、知らないことが多くあったけれども、命の火がつきようとした時、誰の手を握ったらいいのかということについては知っていた。いろいろなことを知っていても、一番肝心な方をしっかり握るということを知らなければ、何を得たというのだろうか。彼は無知であったけれども、一番肝心な方を救い主として捉えていた。」というレポートです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」これが、私たちに対する神様の真実な約束なのです。神様は真実な方で、あなたを愛しておられるのです。この言葉は、神様があなたに宛てたラブレターなのです。神様からの、天国からの手紙なのです。あなたを愛してられる神様を信じて、この週も歩んでまいりましょう。